

【生薬名】 浜防風 *GLEHNIÆ RADIX CUM RHIZOMA*

【起源植物】 ハマボウフウ *Glehnia littoralis*



【科名】 セリ科 Umbelliferae

【別名】 北沙参、八百屋防風、珊瑚菜、ハマニンジン、マツナ

【薬用部分】 根および根茎

【主成分】 精油、クマリン、苦味質、でんぷん

【薬性】 気味は甘苦微寒、帰経は肺腎に属す

【効能】 ●養肺清肺・清虚熱・潤燥止咳

●風邪に1日5～8g

●防風の代用として使われる

●風邪、咳、痰、頭痛、肩こり、関節痛に1日10g

●細かく刻んで風呂に入れば冷え性、神経痛に効果がある

●軽度の祛痰作用を有する

●滋潤するための常用薬である

●慢性の咳嗽・乾咳・痰が少ない・津液不足などの肺陰虚の咳嗽に使用する

【出典】 ●風周身を行り、骨節疼痛するを主り、頭目中の滞気を散じ、頭眩痛、四肢攣急を治す。(古方薬議)

●沙参 味苦、腫を消し、膿を排し、肝を補い、肺を益し、熱を退け、風を除く。(薬性歌)

【備考】 ●日本と中国では指す生薬が異なる。日本では沙参といえば南沙参(ツリガネニンジン、キキョウ科)をさすが中国では沙参といえば北沙参の事である

●刺身のつまとしてとして葉は食されている

●浜防風の名は中国にはない

【処方例】 ●清上防風湯、沙参麦門冬、屠蘇散